

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サーパス工業株式会社 PROJECT BLOOM	階数	地上4F
建設地	埼玉県鴻巣市	構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	396 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年10月 予定	評価の実施日	2025年3月31日
敷地面積	65,540 m ²	作成者	大成建設
建築面積	6,593 m ²	確認日	2025年3月31日
延床面積	21,716 m ²	確認者	大成建設



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 ・埼玉県鴻巣市の敷地に、サーパス工業の本社機能と製造機能を集約する計画である。 ・生産効率を最大化し、地域や従業員の交流を生む空間の創出、地球環境に配慮した安全安心な施設であること等を建物コンセプトとしている。		その他 -
Q1 室内環境 ・平均値を上回る温湿度を設計条件とし、室内環境に配慮している。 ・昼光利用や自動制御が可能な照明設備など、良好な光環境を確保している。	Q2 サービス性能 ・地震力1.25倍を想定し、また微振動対策を講じた構造計画としている。 ・災害を想定し、BCP対策を徹底した衛生、空調、電気設備を確保している。	Q3 室外環境 (敷地内) ・地域性に配慮した樹種を選定している。 ・従業員が自然と繋がるための敷地内計画を行っている。 ・地域と一緒にコウノトリを迎える人口湿地エリアを整
LR1 エネルギー ・高い省エネルギー性を確保した建築設備を計画している。 ・トップライトを確保し、自然エネルギー利用を行っている。	LR2 資源・マテリアル ・節水器具や井水利用などを行い、水資源の保護に配慮している。 ・躯体や仕上材等にリサイクル材を使用するなど、非再生性資源の削減に取り組んでいる。	LR3 敷地外環境 ・燃焼設備を採用せず、大気汚染に配慮した計画としている。 ・十分な駐輪・駐車場を確保し、地域の交通負荷抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
サーパス工業株式会社 PROJECT BLOOM

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						4.0	
Q1 室内環境			0.30	-	-	3.6			
1 音環境		3.2	0.15	-	-	3.2			
1.1 室内騒音レベル	オープンオフィス内許容騒音値: 45dB	4.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		2.6	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-				
2 界壁遮音性能	Dr値45以上を確保	5.0	0.40	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		3.5	0.35	-	-	3.5			
2.1 室温制御		3.6	0.50	-	-				
1 室温	冬期22℃、夏期25℃を設計条件としている	4.0	0.38	-	-				
2 外皮性能	Low-Eガラスを採用している	4.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御	加湿器を設置しており、冬期45%を設計条件としている	4.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.4	0.25	-	-	3.4			
3.1 昼光利用		2.2	0.30	-	-				
1 昼光率		1.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備	オフィス内にトップライトを設けている	4.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-				
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-				
3.3 照度	机上面500lxを設計条件としている	4.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御	自動照明制御可能な設備を採用している	5.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		4.3	0.25	-	-	4.3			
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	天井裏までF☆☆☆☆以上を使用している	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		4.3	0.30	-	-				
1 換気量	中央管理方式で、35m ³ /h人の換気量が確保されている	5.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮	外気取り入れ位置に配慮している	5.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	執務室内のCO ₂ 監視を常時行えるシステムを採用している	5.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	全館禁煙である	5.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.8			
1 機能性		3.9	0.40	-	-	3.9			
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性	10m ² /人の執務スペースを確保	4.0	0.33	-	-				
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	天井高3.0m、十分な窓を計画している	5.0	0.33	-	-				
2 リフレッシュスペース	十分なリフレッシュスペースを確保し、自販機設置の計画もある	5.0	0.33	-	-				
3 内装計画	コンセプトに則した内装計画を行っている	5.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	清掃に配慮しR面取された幅木の採用等	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	十分な面積の管理用倉庫・廃棄物置場の計画等	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.8	0.30	-	-	3.8			
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	基準の1.25倍の耐震性を確保	4.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	微振動対策を行っている	4.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	15年以上の耐用年数がある内装材を採用している	5.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	高温多湿が想定される系統にガルバニウム鋼板を採用している	5.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		4.4	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	重要度の高い換気・空調系統を優先的に運転する計画としている等	5.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	節水性の高い器具を採用している等	5.0	0.20	-	-				
3 電気設備	二回線受電を行っている等	4.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	耐震クラスAを確保している	4.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	ネットワーク機器にUPSを採用している等	4.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.9	0.30		-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	-	
1	階高のゆとり	階高4.0m以上確保している	5.0	0.60		-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以上0.3未満を確保している	4.0	0.40		-	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重4500N/m2を確保している	4.0	0.30		-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	-	
1	空調配管の更新性	設備階を設置し、仕上材を痛めることなく更新修繕ができる	5.0	0.20		-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40		-	-	4.4
1 生物環境の保全と創出		コウトリに配慮した湿地を計画している等	4.0	0.30		-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		埼玉県景観計画に則した建築物のデザインを採用している等	5.0	0.40		-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30		-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		設計プロセスに建物利用者が参加している等	5.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用		トップライトを採用している	4.0	0.13		-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.58	5.0	0.63		-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-		-	-	
4.1	モニタリング			-		-	-	
4.2	運用管理体制			-		-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	-	4.0
1 水資源保護			3.8	0.20		-	-	3.8
1.1 節水		節水器具に加え擬音装置を採用している	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	井水利用をしている	4.0	0.70		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.4	0.60		-	-	4.4
2.1 材料使用量の削減		BCP材、F.T.Pile構法、機械式継手等を採用している	5.0	0.10		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメントB種	5.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3種類以上のリサイクル材を採用している	5.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		再利用可能なユニット部材を用いている等	5.0	0.20		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	-	
1	消火剤		-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		地球温暖化に配慮している	3.8	0.33		-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.6	0.33		-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼設備を採用していない	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場を適切な台数確保している等	5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	-	
1	騒音		3.0	0.50		-	-	
2	振動		3.0	0.50		-	-	
3	悪臭		-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制			-		-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策に配慮している	4.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	サーパス工業株式会社 PROJECT BEE	3.0	BEEランク	★★★★★
------	------------------------	-----	--------	-------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.8	+	3.3	=	7.1
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.8
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
<配慮した内容を記述> ライフサイクルCO2に配慮し、省エネルギー性に配慮した計画としている。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.3
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	4.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 地域特性に則した樹種の選定、またコウノトリに配慮した湿地の計画など、生物多様性に配慮した緑化づくりを行っている。			

:入力欄